

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475400436
法人名	有限会社 コスモスヘルパーステーション
事業所名	コスモス・ぴあ・ハウス
訪問調査日	平成 20 年 2 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 27 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1475400436
法人名	有限会社 コスモスヘルパーステーション
事業所名	コスモス・ぴあ・ハウス
所在地	神奈川県川崎市多摩区菅稲田堤3-17-1 (電話) 044-749-4669

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年2月13日	評価確定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(平成20年2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,700 円	その他の経費(月額)	41,300 円	
敷金	有(200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2月13日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2		3名	
要介護3	3名	要介護4		2名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85歳	最低 73歳		最高 94歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中野島診療所、中野島整形外科クリニック、山手歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>利用者が、その人らしい、自由な、できるだけ自立した生活が出来るよう、法人のヘルパーステーションで蓄積した経験を活かした支援を行っている。</p> <p>運営推進会議と家族会を毎月一緒に開催し、利用者、家族の意見や要望等を確認して、日々の運営に活かしている。</p> <p>社内研修カリキュラムにより、毎月、項目を決めて研修を行い、国内外の研修にも積極的に参加して、職員の資質向上に努めている。</p> <p>看護師2名を配置し、協力医療機関と連携して、医療面を重視した支援を行っている。</p> <p>地域の行事への参加や事業所の催し物に地域の人を招いて楽しんでもらったり、近隣の高齢者の介護相談を受けるなど、地域との交流をはかっている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果では、改善を要する項目はなかった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員一人ひとりから意見を聞き取り、取りまとめて作成した。今回の自己評価をもとに改めて職員全員で話し合い、改善していく意向である。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を毎月開催している。利用者、家族、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、事業所の活動状況の報告や意見交換等を行い、サービスの質の向上に反映している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会の開催時に面談を行い、家族からの相談・意見等を聞き、必要に応じて職員全員で話し合い対応している。出席できない家族には別の日を設定し面談を行っている。家族が意見を言いやすいように、運営者を始め、職員が家族との話し合いを大切にし、意見を日々の運営に反映するよう努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、行事に参加したり、回覧板に事業所の行事を載せてもらっている。毎月行う事業所の催し物に、地域の人を招いて楽しんでもらうなど、地域との連携を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい、自立した、自由な生活が続けられるよう支援するという考えの基に作成した、事業所独自の5項目の理念を掲げて、支援に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室に掲示し、常に会議などで職員の意識を高めるとともに、理念5項目を記したカードを常時携帯し、理念に基づき支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事の盆踊り等に参加したり、回覧板に事業所からのお知らせなどの記事を載せてもらっている。また、幼稚園の催し物の参加や小学生が遊びに来てくれたり、近隣の方から野菜を頂くなど、地域との交流を深めている。また、近隣の高齢者の介護相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、個々の職員から意見を聞き取り、法人の統括者が取りまとめて作成した。全職員で話し合い、課題を見つけて改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を毎月開催している。利用者、家族、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、事業所の活動状況の報告や意見交換等を行っている。今回の外部評価についても話し合い、民生委員から個人情報保護について留意するようアドバイスを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは日頃から情報交換を行う等の関係を保っている。今後も今まで以上に連携をとり、サービスの質の向上に取り組む意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、行事と一緒に家族会を開き、家族とは個別に面談を行い、利用者の暮らしぶりや健康状態等を伝えている。出席できない家族には別の日を設定して、面談を行っている。小遣いについては、出納帳を提示し家族の確認、承認を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望等については、契約書及び重要事項説明に苦情・相談窓口を明示し、入居時に説明している。家族会や個別面談の際には意見・要望等を聞き、改善につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、職員が替わった際には、利用者、家族に説明し、利用者一人ひとりと十分話をするなどの対応をし、混乱を防ぐよう配慮をした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修カリキュラムにより、毎月、項目を決めて研修を行っている。また、国内外の外部研修にも積極的に参加するようにしており、資格の取得を奨励している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の人脈を活用し、県外の同業者等と情報交換を行うなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>管理者、ケアマネジャー、看護師等が入居予定者宅を訪問してアセスメントを行うとともに、本人との馴染みの関係作りに努めている。入居後は、声かけを多くしたり、馴染みの品を居室に置くなどして、新しい環境に馴染めるように配慮している。また、利用者と馴染めるように職員が声かけを行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で利用者それぞれの能力や好みを考え、食事の下準備や片付けなどを職員が見守ったり一緒にやったりすることで、少しでも自立して、やりがいを感じられるように援助している。昔話に共感したり、行事のやり方を教えてもらうなど、共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居後は、「私の自立度経過シート」により、利用者一人ひとりの意向や希望等を把握している。日々の生活の中で、習字の先生だった人と一緒に習字をしたり、音楽の先生だった人と歌を歌うなど、その人らしい暮らしが出来るように取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族との個別面談で出された意見、要望等をもとに、自立を支援してその人らしい自由な生活ができるように「私の自立度経過シート」を使い、長期と短期の介護計画を立てている。また、利用者一人ずつの24時間の動きを示す「一日の手順」を作成し、それに従って支援している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、原則として3ヶ月毎としているが、大きな変化があった場合には、その都度カンファレンスを行い見直ししている。職員はカンファレンスで決まった議事録を常に携帯し、日々の支援に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師2名を配置し、医療面を重視した支援を行っている。医療機関での受診の際には、職員が送迎をしている。医療連携体制の加算を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で、月に2回、看護師の資格を持つ職員が同行し、協力医療機関で診察を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については契約書に明示しており、必要性が生じた場合には、利用者・家族、関係者と協議の上、医師・看護師とも連携し、介護計画に位置づけて、利用者の尊厳を重んじた支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護については、職員研修で全員に徹底している。利用者に接する際は、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に配慮している。個人情報が記載されている書類関係は、施錠できる部屋に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にした支援を心がけており、早起きが苦手な人、のんびり食事する人など、一人ひとりにあわせて対応している。訪問調査では、テーブルで新聞を切り合わせする人やテレビを見る人、お茶を飲む人など、利用者が思い思いに過ごしている様子を見受けた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査日の昼食の準備にあたっては、飲食店で勤めていた利用者の音頭で、楽しく進められていた。職員も交代で食卓を一緒にし、会話を楽しんでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は週2回の入浴としているが、夏場はシャワー等で毎日入る希望にも応えている。夜間に対応していないが、ゆず湯やバラの花を入れたお風呂など、楽しく入浴してもらえるように工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の洗濯物たたみや、歌の先生、習字の先生、料理の経験を活かして、できることや得意なことをやってもらっている。おはじき、塗り絵、新聞切り合わせ等をみんなで楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や川辺に日常的に出かけているほかに、買い物、展示会の見学や季節の花見等の計画を立てて外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通事故の危険があるため、家族の了解を得て玄関の鍵は日中・夜間ともに掛けている。また、他の人が入ってくることを嫌がる利用者の居室には、家族の同意のもとに、外から鍵を掛けて、利用者が自分で中から開けることができるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で防災訓練を毎年実施している。緊急連絡網、無断外出時の対応、緊急時の対応(夜勤・日勤)のマニュアルを掲示している。非常食、飲料水を備蓄している。近隣からの協力を得られるよう、日頃からの働きかけも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、外食業者のカロリー計算を参考にして1ヶ月分をまとめて作成し、法人の管理栄養士や看護師のチェックを受けている。現在介助を必要とする利用者はいなく、嚥下体操を取り入れている。必要な利用者には、介護記録に食事摂取や水分摂取、排泄の記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間、台所、トイレ等に掃除担当職員を置き、環境整備に努め、清潔を保持している。1階のリビングにはテーブル、ソファ、テレビを置き、また季節の花、塗り絵、習字等利用者の作品が飾られていて、くつろげる空間になっている。強い日差しにはカーテンを使い、調整をしている。利用者の多くは日中を居間で思い思いにくつろいでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、箆笥、本箱、仏壇・神棚、テレビ、子どもの写真や絵など、それぞれの使い慣れた好みのもので必要な物を置き、本人が居心地よく過ごせる場所になっている。		

自 己 評 価

公開日 平成20年1月15日

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	コスモス・ぴあ・ハウス
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市多摩区菅田 3-17-11
記入者名 (管理者)	野阪 則子
記入日	平成20年1月14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
I-1. 理念と共有				
1	○ ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者は特別ではなく、その人らしく生活して頂けるように事業所独自の理念を作り上げている。		
2	○ ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が少しの時間でも話し合う機会を作り、日々のサービスを共有している。		
3	○ ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族とは家族会等で理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	地域の方々との取り組みはまだ不十分なので、今後は門戸をさらに開いて取り組んでいきたい。
理念と共有 3項目中 項目				
I-2. 地域との支え合い				
4	○ ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	声かけはもとより、地域の方の畑の野菜を収穫させていただいたり。収穫した野菜を頂いたりしている。		
5	○ ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地元の方々との交流に勤めている。		
6	○ ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の不安やプライバシーについて十分配慮できている。	○	今後は地域の高齢者の方々へのケアサービス推進に還元する取り組みをしていきたい。
地域とのつきあい 3項目中 項目				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし、それにそって全職員で話し合い課題を改善すよう努めている。	○	課題に対し、全職員での話し合いを怠ける事の無いきめ細やかなケアをしていきたい。
8	○ ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1ヶ月に1回の運営促進会議を行い、問題点を改善してサービス向上に活かしている。		
9	○ ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時あるごとに市町村と共にサービスの質向上に取り組んでいるが、まだ不十分である。	○	今後は市町村(区)との連携を今まで以上に取り、サービスの質向上に取り組んでいきたい。
10	○ ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業所や成年後見制度について学ぶ機会を作り、必要に応じて活用・支援している。		
11	○ ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、見過ごされている事の無い様に努めている。	○	常に注意を怠らない様に取り組んでいきたい。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 項目				
I-4. 理念を実践するための体制				
12	○ ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者やご家族の不安や疑問点に対し十分な説明をし、理解・納得を図るように努めている。	○	今後も不安をあたえる事のない様に努めていく。
13	○ ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見、不満、苦情に対しては正すべきところは正し、それらを運営に反映させている。		
14	○ ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	現在は1ヶ月に1回家族会を行い、一家族ごとに個人に関し報告し、必要に応じて電話でも報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	○ ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等の意見、不満、苦情に対しても正すべきところは正し、それらを運営に反映させる様に努めている。		
16	○ ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案に対して、聞く機会を設けて反映させるよう努めている。		
17	○ ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常にその時に応じて柔軟な対応に努めている。		
18	○ ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への方々へのダメージを防ぐ配慮に努めている。		
理念を实践するための体制 7項目中 項目				
I-5. 人材の育成と支援				
19	○ ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて育成する様に法人内外の研修を受ける機会を設け、働きながらトレーニングしていく事に努めている。		
20	○ ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流ネットワーク作りや勉強会等の相互の活動を通じてサービスの向上に努めている。		
21	○ ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの軽減に努めている。		
22	○ ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
人材の育成と支援 4項目中 項目				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○ ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の方の話を傾聴し、受け止める事に努めている。	
24	○ ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等が困っている事、不安な事、求めている事を傾聴し、受け止める事に努めている。	
25	○ ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのとき出来る事は直ぐに実行し、出来ないことに関しては他のサービス利用も含めた支援を考えるよう努めている。	
26	○ ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の納得が得られるように他の入居者の雰囲気等に注意しながら安心して利用できる様に努めている。	
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 項目			
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○ ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の話を傾聴・共感し理解に努め、入居者を尊重しつつ助け合って暮らす様に努めている。	
28	○ ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携をとりつつ、ご家族の苦しみや悲しみを理解し、入居者を支える様努めている。	
29	○ ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者とご家族がより良い関係でいられる様に努めている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	情報収集に努めて馴染みの人・場所との 関係継続が出来る様に努めている。		
31	○ ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	9人の入居者の現在の状況を常に把握 し、それぞれの良いところを十分活かして もらえる様に努めている。	○	状況が変化するので、それに合う様に 入居者同志が係わり合い、支え合える 様に努めていく。
32	○ ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	フォローを怠らない様に努めている。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 項目				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握			
33	○ ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の望み等を話の中や表情・行動等から汲み取り把握する事に努め、より良い状況にする様に努めている。	
34	○ ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴等の情報収集に努めている。	
35	○ ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の食事(量も含む)、睡眠、排泄、水分量、体重(月2回)、血圧、脈、体温(毎朝)チェックし、一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。	
一人ひとりの把握 3項目中 項目			
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員の意見も考慮し、それらを反映して作成・見直しを行っている。	
37	○ ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じては無論変化があった時は速やかに見直しを行っている。	
38	○ ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア状況及び気づいた事を記録し、その日に起きた出来事は次の日には全職員で共有し、実践へ反映している。	
介護計画の作成と見直し 3項目中 項目			
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○ ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安心して暮らし続けられ、ご家族も安心して頂ける様な支援に努めている。	
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 項目			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必ず少なくとも月1回はボランティアで紙芝居や歌手の方が来られたりと地域の資源活用にも努めている。	○	警察、消防、文化、教育機関等の協力を力を入れて取り組む事に努めている。
41	○ ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の意向、必要に応じて自グループホームのケアマネジャーと話し合い支援している。	○	他のサービス利用及び、市町村の保健師の介護保険外の生活に結びつくサービスの把握に努めたい。
42	○ ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働している。	○	今後もっと協働する事に努めたい。
43	○ ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9人全員に対し、受診支援は出来ている。		
44	○ ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。		
45	○ ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員と気軽に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○ ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族と連携を取りながら病院とも情報交換をし、早期退院に向けて具体的な体勢を作っている。		
47	○ ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	チームで重度化及び、終末期に向けた入居者ごとに話し合い、対応する最大限の支援方法を共有している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の入居者を支える為にチームの連携を取り、他の入居者への影響も踏まえ準備に努めている。		
49	○ ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移行先へケアのノウハウ、個別情報の伝達等プライバシーに配慮しつつ行う様努めている。		
地域資源との協働 10項目中 項目				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
IV-1. その人らしい暮らしの支援			
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	○ ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	日常生活で入居者の方を傷つけることのない様に配慮を心がけ、情報の取り扱いに十分注意している。	
51	○ ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方との話の中で希望等を抽出し、個々の力に応じて自己決定できる場面を作る様支援している。	
52	○ ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その場その場に応じて、その方らしい暮らしが出来る様支援している。	
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 項目			
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ボランティアの美容師さんが希望を聞きながらカットしてくれ、身だしなみは不十分などところのみ介助している。	
54	○ ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には調理の下準備や片付けをして頂く様支援している。	
55	○ ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつは好みの物を出来る限り出す様に努めている。	
56	○ ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を減らす為に一人一人の排泄パターンを全職員が把握し、支援している。また、オムツの使用量も減らすことにも努めている。	
57	○ ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応曜日は決まっているが、一人一人が入浴を楽しむ事の出来る様にゆず湯や暮蒲湯等の入浴剤を使用したり、声かけに工夫している。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○ ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人のリズムに合わせ、休息を取り入れたり、眠れない入居者に対しては原因を見極め石と連携を取り支援している。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 項目				
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	マンネリ化しない様にその方に合った役割をして頂く。楽しみ事は入居者の希望を聞きながら歌を歌う等支援している。		
60	○ ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は”お小遣い”として預り、管理して出来る方に対しては頼まれた買物をするなど支援している。		
61	○ ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行が困難な方も車イスで戸外に出かけられる様支援に努めている。		
62	○ ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族連携を取りながら普段いけない場所への外出支援に努めている。		
63	○ ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、知人からの手紙や電話を歓迎し、内容が漏洩しない様に気を配りながら支援に努めている。		
64	○ ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人達が来訪した時は、またいつでも訪問したいと思って頂ける様に努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 項目				
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援				
65	○ ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって入居者の身体的・精神的な弊害を理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	○	今後も全職員で取り組んでいく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○ ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のみ外部からの侵入を防ぐ為に鍵をかけているが、弊害はなく、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○ ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼は職員が入居者を見守りやすい位置にいて安全を確認し、夜は2F・3Fに部屋がある為、巡視し安全確認に努めている。		
68	○ ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の行動パターンに熟知し、注意が必要な物品は十分検討し、片付けている。	○	状況の変化に直ぐに対応できる様に取り組んでいく。
69	○ ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況を全職員が共有し、事故防止に努めている。ヒヤリハット記録の報告にも努めている。		
70	○ ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時・事故発生時に備え全ての職にわかる様連絡網の提示をし、応急手当、初期対応の徹底に努めている。	○	救急救命法の学習や訓練に取り組んでいく。
71	○ ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わず日頃より地域の人々の協力を得られる様に働きかけている。	○	地域の人々の協力が得られる様に今後も働きかけていく。非常用の食品、備品の準備をする。
72	○ ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族等との話し合い、起こり得るリスクへの対応策を説明し、抑圧感の無い暮らしを大切にしている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 項目				
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が入居者の体調の変化、異変に気を配り、速やかに対応し、記録、報告をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○ ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、入居者一人ひとりが使用している薬の目的や副作用などを理解して支援し、症状の変化の確認に努めている。		
75	○ ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らず、食品、水分量に気を配り、排泄チェックを忘れず、体を動かす働きかけに努めている。		
76	○ ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに応じて口腔ケアの働きかけ及び介助をしている。		
77	○ ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに対して、栄養摂取総量、水分量を把握し、栄養バランスにも配慮している。		
78	○ ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防と早期発見への取り決めは明確になっている。		
79	○ ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生管理、食材の使用の安全と管理、調理員の衛生管理に努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 項目				
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○ ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でも安心して出入りが出来る様に常に心を配っている。		
81	○ ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者にとって生活感や季節感を採り入れ、居心地良く過ごせる様に工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○ ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で一人ひとり又は入居者同士の関係性等に配慮した居場所作りや環境作りに心がけている。		
83	○ ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を置き、居心地良く過ごせる様に工夫している。		
84	○ ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	昼間は入居者の方々と会話しながら温度調節を行い、夜間は細めに訪室し、温度調節をしている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 項目				
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能が活かせ、かつ、安全を考えて、自立した生活が送れる様に工夫している。		
86	○ ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者のプライドを傷つける事なく、一人ひとりのわかる力を把握し、混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		
87	○ ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節感を感じる様、ベランダに工夫し、入居者の方々が楽しめるスペースを作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
	項目	14 取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

常に入居者の自主性と尊厳を尊重し、安全に楽しく過ごせる様努めている。